

＜企画＞先生の日常

全国どこに行っても、先生は先生。同じ仕事をしているはずなのですが、地域によって、また学校によって、また学校種によっては全然違った一日を過ごしているかもしれません。もちろんそれぞれの個性や、どんな同僚がいるのか、どんな子どもがいるのかによっても、目にする景色は異なっているでしょう。今回はこの5年の間に鳥取大学を卒業し、教職に就いた方々に、さまざまであるだろう「先生の日常」を描き出していただきました。先生になった時の生活を追体験するとともに、教員文化の一端を垣間見ることができれば幸いです。

日々子どもたちと成長！

濱部 智絵

自己紹介

- ・担当教科：国語
- ・部活動顧問：バドミントン部女子
- ・教諭4年目（初任3年は日南町立日南中学校、今年度4月からは鳥取市立桜ヶ丘中学校で勤務しています）
- ・大学時代はボート部で、朝日が昇るのとともに湖山池でボートを漕いでいました

学校紹介

鳥取市立桜ヶ丘中学校

- ・生徒数522人 鳥取市で3番目に生徒数が多いです
- ・面影小学校、津ノ井小学校、米里小学校、若葉台小学校の4校が校区になります
- ・校訓「自主・創造・友愛」

先生の日

- 6:30 起床
- 7:30 出勤、教材準備
- 8:15 朝読書開始
- 8:45 授業開始
- 16:20 部活動開始
- 18:00 教材研究、事務仕事等
- 19:30 退勤
- 23:00 就寝

【意外だった勤務先の「あたり前」】

教員になって一番驚いたのは、給食を食べる時間が非常に短いことです。私はもともとご飯を食べるスピードが遅かったため、教育実習の時から給食を時間内に食べきれぬかということに心配していました。

そして、実際に給食指導をしてみると、給食を食べるまでに様々なことを乗り越えなければならないことに気づきました。給食を学級の人数分配膳しますが、その間にもおかずが足りなくなったり、汁がこぼれたりと日によってはドタバタです。そして、「いただきます」をして食事開始です。しかし、次はおかわりをめぐって壮絶な争い（じゃんけん）が繰り広げられます。勝負の行方を見届けながら、余ったおかずや牛乳等を生徒に配ります。そしてようやく自分の給食にたどりついたときには、残された時間は10分もないことがほとんどです。最初は必死でごはんをかきこんでいましたが、今では早く食べることに慣れ、すべて時間内に食べられるようになりました。慣れることの偉大さを感じました。



【一番の楽しみ、うれしいこと】

仕事をしていて一番うれしいことは、生徒の成長を感じる時です。その中でも、今回は学校行事の様子を紹介します。

今年度私は2年生の担任をしていますが、体育祭では、入賞することはできませんでしたが、それでも最後の競技まであきらめずに声を掛け合い、学年を超えて熱い応援を送り合いながら練習期間から本番まで取り組みました。文化祭では、クラス合唱で「明日へ」という曲を歌いました。音程が上手く取れなかったり、声量が足りなかったりと最初は険しい道のりでしたが、練習を重ねるにつれてめきめきと進化し、本番はとても心に残る最高の合唱になりました。生徒同士のつながりもぐっと強くなり、とてもうれしく感じました。



合唱練習をしていた中庭

【一番勇気を試されたこと、勇気を必要としたこと】

今年度の12月、校内の研究授業がありました。「走れメロス」を題材に、中学2年生国語の授業を行いました。国語科専門の教授にお越しいただき、県教育委員会、校内の先生方たくさんの方々にみていただく研究授業で非常に緊張し、勇気が必要でした。夏休み前から教授や学校の国語科、研究チームの先生方にたくさん関わっていただいて何度も練り直し、授業を組み立てました。緊張やプレッシャーもありましたが、この研究授業がきっかけで授業づくりに対する意識も変化したと思います。

勇気を出した分、自分自身の成長にもつながりました。すべての経験を糧にして、日々前進していきたいと思っています。

濱部智絵（鳥取市立桜ヶ丘中学校教諭）※2019年度卒業生

あつという間な1日

佐々木 絢奈

自己紹介

佐々木 絢奈 (ささき あやな)

令和3年3月、鳥取大学地域学部地域学科人間形成コース卒業

中学生の時、妹の幼稚園の音楽発表会で子ども達の歌声を聴き、幼稚園の先生になりたいと思ひ、幼稚園教諭の道を志した。

学校紹介

認定こども園鳥取第一幼稚園

鳥取幼稚園の発祥の園として昭和30年に開園し、創立68年目を迎えた。音楽教育を柱に、子ども達の情操教育を行い、音楽を通して、主体性や協調性を育て心身ともに豊かにたくましい成長を目指している。近年は、同法人の鳥取城北高校との連携に力を入れている。

建学の精神

- ・心身ともに健康な子どもの育成
- ・よりよいしつけを身につけた子どもの育成
- ・自分の能力を伸ばすためにがんばる子どもの育成

教育目標

豊かな心をもち、生き生きと遊ぶ子ども

めざす子ども像

- ・自分で考え、主体的に行動する子ども
- ・健やかな心と身体を持ち、たくましく活動する子ども
- ・友だちの気持ちを思いやり、なかよく遊ぶ子ども
- ・素直に感動する心をもち、個性豊かな子ども
- ・豊かな生活経験の中から、物事を知的に理解し、判断する子ども

先生の一日

6:30 起床

8:00 出勤 (早番の日は7:00)

8:30 保育開始

15:00 保育終了&お茶タイム

15:30 職員室にて業務

17:30 退勤

19:00 帰宅

24:00 就寝

【意外だった勤務先の「あたり前」】

現在、ひとつの場所でしか勤務経験がなく、何事も全てが新鮮です。ですので、ここでは鳥取第一幼稚園の好きな場所を自慢させてください。私が一番好きな場所は、屋上庭園です。屋上庭園では、イチゴや様々な花を育てていたり、鳥取市中心部を見渡すことができたりと、なんだかほっとする場所です。晴れた日には、子ども達が元気よく体をのびのびと動かして遊ぶ場所にもなります。これからも屋上庭園を活用して、保育を展開していくことができたら、と考えています。



【一番の楽しみ、うれしいこと】

園では、学期末毎に、その学期の頑張りを誇る「期末反省会」という職員間での楽しみがあります。コロナ禍のため、お店で食事をしながら先生方とお話する、ということはありません。ですが、それぞれの幹事の先生が企画し、幼稚園内で、ビンゴ大会やクイズ大会などをして楽しいひと時を過ごします。先生方とコミュニケーションをとることができ、普段の仕事中とはまた違う楽しい空気感を味わうことができます。保育は、大変なこと、悩むこと、たくさんありますが、「今学期も最後まで頑張ってよかったなあ」と感じる瞬間のひとつが、この期末反省会です。

また、個人的に「好きな行事トップ3」の中に入る行事は、お泊まり保育です。毎年、年長の子ども達が、家族のもとを離れ、友達や先生と一緒に、楽しい様々な活動しながら、1泊2日を過ごします。家族と離れて寝ることが初めてな子どもも多く、中には、寂しさのあまり涙を流してしまう子どももいます。ですが、その寂しさを乗り越えて、ひとつお兄さん・お姉さんになろうとする子ども達の姿がとっても可愛く、見ているこちらが元気をもらいます。改めて、子ども達のパワーを感じることもできる素敵な行事だと思います。

【一番勇気を試されたこと、勇気を必要としたこと】

今まで勇気を必要としたことは数えきれないほどありましたが、その中でも、担任1年目の、子ども達と一番最初に過ごす日が心に残っています。これから1年間どんなクラスにしたいのか期待もありながら、それと同時に、私が担任をしていいのだろうか、と、たくさんの不安や緊張もありました。

期待と不安が入り混じり葛藤をしながら子ども達の前に立った瞬間の感情は、これからの、幼稚園教諭人生において、いつでも初心を思い出すことのできる場面だと思います。これから、たくさんの乗り越えなければならぬ壁も待ち受けているかと思いますが、初心の気持ちを思い出して頑張りたいと思います。



↑ 保育風景（朝の会）

佐々木絢奈（認定こども園鳥取第一幼稚園教諭）※2020年度卒業生

先生3年目のすごしかた

大國 真衣

自己紹介

採用されてから3年目の小学校教員です。免許は小学校1種、中学校1種(英語)、特別支援学校をもっています。鳥取大学地域学部地域教育学科卒業後、地元の島根県で働いています。山奥の小規模校出身なので、3年務めてようやく大規模校の生活スタイルに慣れてきたところです。基本的にインドア派ですが、時々アウトドアに目覚めることがあります。鳥取のおすすめは、美味しい焼肉とスキーです。

学校紹介

島根県にある600人規模の小学校で、約50人の先生方と働いています。

先生の日

【平日】6:30 起床 → 7:15 出勤 → 7:30 授業準備と心の準備 → 8:00 いざ教室へ → 8:30 授業開始 → 16:00 下校 → 職員会議(週1)、学年で打ち合わせ、公務分掌、保護者連絡、丸付け、授業準備など → 19:00 退勤 → 22:30 就寝

【休日】 ゆっくり起床。仕事をすることもある(残った仕事があり、気になる時、部活など)。好きなことを楽しむ。 ※日曜日に予定を入れると、サザエさん現象を防げます。

【意外だった勤務先の「あたり前」】

- 駐車場が狭かった！：就職して初めて車の運転をすることになりましたが、思ったより駐車場が狭くて、毎日ドキドキしていました。今では狭い駐車場も平気です。笑
- 自分で働き方をつくっていくこと：仕事の優先順位を定めて、いつ・どのくらいの時間でこなすか予定を立てて取り組んでいかないと帰れません…

【一番の楽しみ、うれしいこと】

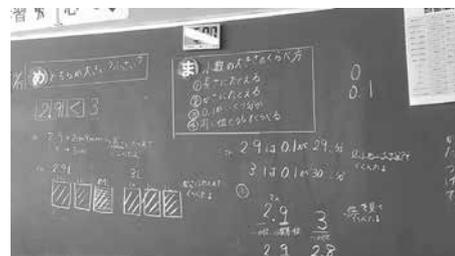
- 給食：毎日日替わりでおかわりもできるので、楽しみです！
- 健康な体を手に入れられて嬉しい：毎日1万歩、休み時間のおにごっこで無意識に体を動かす時間が多いので、いたって健康体です。
- 先生方との交流：若い先生が多いので、時々ご飯に行きます。コロナで年に数回ですが、忘年会や打ち上げを楽しみにしています。登山やバーベキューに誘っていただくことも！
- 給料日：自分で稼いだお金で好きなものを買ったり、貯めたりすることも楽しみです。
- いろいろなタイプの人に出会うことができる！：まだまだ余裕はなく、しっかりと子供たちに向き合えていないことが現状ですが、子供たちそれぞれがもつ素敵どころや面白さ、苦手さがあります。子どもだけれども、1人の人として関わってみると、こちらも学ぶことが多いです。どうすれば関係を築けるのか日々研究です。職場の先生方は、同年代、家庭がある方、年配の方など年齢層が幅広いので、いろいろな話を聞くことができたり、相談に乗ってもらったりすることができます。親身になってくださる方が多い印象です。
- 生活リズムが整う！：基本忙しい毎日で、もう少しゆっくりする時間がほしいですが、だいたい私の性格には合っているなあとと思います。早寝早起き、適度な運動、給食で栄養バランスのよい食事、人とのコミュニケーションが毎日取り入れられているので充実しています。

- 試行錯誤が面白い！：日々をこなすことに精一杯ですが、目の前の子どもたちに「わかった！」
「面白い！」という経験になるべくさせたいと、教材と向き合う時間が好きです。自分自身が勉強に対して楽しさを見出す経験が少なかったため、心に余裕がある時ややるぞ！と思ったタイミングでは、工夫して単元を考えるようにしています。考えて挑んでも失敗したなど思うことは多いですし、ねらいとずれていたりしてしまい後悔することもあります。その時に先輩先生に相談したり、分析したりするなかで1つでも実りがあればラッキーと思って取り組んでいます。でも、忙しいのでいっぱいいっぱいの際は、端的に進めたり、映像教材を活用したりして余白をつくることも大切です！
- 3年目にして働き方がなんとなくつかめてきた気がします！：1年目は何でも初めてですし、初任者研修もあり、学級を1年間保たせることに精一杯であったという間に過ぎていきました。2年目は、全校を動かす公務分掌を担当することになり、ドキドキしながらなんとか乗り越えました。校内の仕組みがなんとなくわかってくるので、自分から見通しをもって動けるようになっていきました。3年目は、なんとなく自分の学級経営や授業スタイルが見えてきて、休日出勤がなくなり、ゆっくり休日が過ごせるようになりました。自分の授業や働き方に目を向けられるようになってきたので、改善したり、先輩先生の姿を見て学んで試してみたりするという機会が増えてきました。

【一番勇気を試されたこと、勇気を必要としたこと】

- 教えてください！と言う勇気：初任の時、校内地図をはじめとして、印刷機の使い方、職場のマナー、授業のまわし方、子どもとの接し方などわからないことだらけでした。でも先生方は常に忙しそうで質問することが申し訳なくて、失敗してしまうことも多かったです。質問できるようになっても「すみません。」が口癖になっていました。今思うと、わからないことが当たり前なので、「今よろしいですか？」と相手の様子を見て遠慮なく聞くべきだったと思います。コツはいろんな先生（若い先生には聞きやすい！）にまんべんなく聞くことです。
- 叱ること：自分や相手を傷つける行為、周りに迷惑をかける行為、ルールを破る行為に対しては叱ります。普段『叱る』経験をしてきていないので、叱る基準や立ち居振る舞いがわかりませんでした。職場の先生方が叱る時は自分も授業をしている時なので、なかなか参考にする機会がなく困ってしまいました。また、それぞれタイプがあるので、自分に似た雰囲気をもつ先生を見つけて観察したり、いろんな叱り方をしてみてこれだ！を見つけたりしてみています。まだまだ修行中です。

4月当初は、どんな学級経営をしていこうかと0ベースからスタートしますが、日々過ごしているうちに、こんなことを試してみたいな、やってみようかなと試行錯誤しながら子供たちと取り組むことでだんだん教室が色づいていくところが好きです。「なんで？」「解いてみたい！」という子供たちの気持ちから、各々の考え方が出てきて、「わかった！」「なるほど！」に変わる瞬間が好きです。



大國真衣（出雲市、小学校教諭）※2019年度卒業生

かなりハードでも、やりがいだらけの毎日

宮竹 功大

自己紹介

プライベート：名前は宮竹功大で、生年月日は1996年1月19日です。今年の8月に小学校時代の同級生と結婚しました。趣味は、サッカーで、小学校から現在まで18年間続けています。現在は、社会人サッカーチームに所属していて、かなりの腕前だと自分では思っています（笑）最近は、ワールドカップを見ており、寝不足の毎日を送っています。長所は、元気がかつ真面目なところで、教員になってから、無遅刻無欠席を貫いています。さらに、休み時間には、毎日外に出て、子どもたちとサッカーや鬼ごっこをしています。

経歴：鳥取大学地域教育学科を、2019年度に卒業し、教師になって4年目になりました。高知県四万十町立東又小学校で初任を含め2年間勤務し、昨年度から、高知県須崎市立吾桑小学校で勤務しています。今年度は、もち上がりの6年生を担当して、最高学年の担任として学校を引っ張る立場を任されています。校務分掌は、前任校含め3年連続担当している体育主任、そして外国語主任、特活担当になっています。

学校紹介

私が勤務する須崎市立吾桑小学校は、全校児童54名の小規模校です。学年ごとの構成は、4年生と5年生が複式になっていて、その他の学年は単式になっています。児童は、学年関係なく遊んだり、学習に意欲的に取り組んだり、素直な子どもたちが多いです。学校教育目標は、「強く、たくましく、豊かな心で生きる児童の育成」、研究主題は、「意欲的に学び、人間性豊かな児童の育成」となっています。研究教科である道徳科を中心に、地域と密接に関わりながら取り組んでいます。

先生の日

5:30 起床 → 6:00 出発 → (朝食は車の中で) → 7:00 出勤 → 8:30 授業開始 → 16:15 授業終了/児童下校 → 16:30 分掌業務・教材研究 → 19:30 退勤 → 20:30 帰宅 → 23:30 就寝

【意外だった勤務先の「あたり前」】

私は、体育主任を初任を除く3年間担当しているのですが、運動会を実施する大変さには驚きました。自分が学生るときは、練習が少し疲れるくらいで、ずっと体を動かして、授業時間も潰れる本当に楽しい学校行事だと思っていました。しかし、実際に中心として企画してみると、できるならやりたくない！と思うほど大変でした。何が具体的にしんどいのかというと、学校のことだけではなく、地域や文部科学省の通達など様々なことを考慮し、企画しなければいけないところです。また、応援団やダンスは、もちろん自分ができないと教えられませんし、他クラスの種目もどんなことか知っておく必要があります。加えて、毎日のライン引きや道具の準備等、肉体的な負担も大きいです。

他にも担任や校務分掌によって、学生るときは楽しかったのに、実はこんなに大変だったの！と驚く行事はたくさんあります。ただ、行事を通して子どもは大きな成長を遂げるときもあり

ます。大変なことだけではなく、そういった喜びはありますよ（ちなみに修学旅行、合宿は楽しかったですよ！）。

【一番の楽しみ、うれしいこと】

子どもたちに何か働きかけるのは、担任として当たり前のことだと思うのですが、逆に子どもたちから何かアクションがあったときはとても嬉しい気持ちになります。もちろん、やってくれないから担任としてだめというわけではありません。ただ、信頼関係が築けているから、担任が大好きだからこそそのアクションだと思うので、サプライズなんかされた日には毎回泣きそうになります（笑）。前任校では、サプライズで、学期末に『ありがとう会』を企画してくれて、写真立てや色紙のプレゼント、そして GReeeeN の「キセキ」を合奏してくれました。特にキセキの合奏は印象的で、この日のためにたくさん練習してきたと思うと本当に嬉しかったです。休みの日に集まって練習していたとその保護者からも聞きました。合奏中は、全員が泣いていて、自分もらい泣きしてしまいました。2年たった今でも、あの日のことは鮮明に覚えています。

現在校は、2年目で、1年目からの持ち上がりなのですが、サプライズで結婚式をお祝いしてくれたときは、家族の手紙より嬉しかったです（笑）。自分たちに何かできることはないか、私に内緒で他の先生方に自主的に相談していたようで、みんなで話し合っメッセージのサプライズビデオを作成してくれました。結婚式で映像が流れたときは、びっくりして、本当に感動しました。他にも、たくさんありますが、こんな大掛かりなことではなくても、日々の「ありがとう」や「学校が楽しい!」、「勉強がよく分かる!」といった声も本当に嬉しいです。それらが自分のやりがいに繋がっています。



「イチョウの木」
高知県1のイチョウだと
自負しております！



「6年生教室」
子どもたちとの思い出がたくさん
つまっています(^_^)b

【一番勇気を試されたこと、勇気を必要としたこと】

勇気が必要なことはたくさんありますが、その中でもとりわけ必要となるのは、『公開授業』です。学校を背負っての発表の際は、管理職の先生方から大きな期待を寄せられますし、その分、緊張も大きいです。しかし、やり遂げることで授業力は確実にレベルアップしますし、教員として大きく成長できます。私は、4年次ですが、国語科と理科で県全体に呼びかけるような大きな授業を行いました。両方とも、準備に数ヶ月かかり、夜遅くまで研究したりとかなり大変でしたが、やってよかったと思っています。有名な先生方から、ありがたいお言葉を頂き、教員としての大きな自信となりました。ちなみに、今年度の1月にも大きな授業が控えています。今、準備で大変ですが、乗り越えたそのときは、きっと教員として大きく成長できるとと思っています。

みなさんも勇気が必要かもしれませんが、『公開授業』チャンスがあれば是非チャレンジしてみてください。

宮竹功大（須崎市立吾桑小学校教諭）※2019年度卒業生